

昭和47年卒業生便り

松本 逸郎 (昭47)

同窓会報には同学年の卒業生だけでなく、その前後の卒業生諸氏の消息について知る楽しさもあります。そのことで遙か昔の青春時代を思い出し、また新たな気持ちになることも事実です。そこで『近況報告依頼』の好機に10名近くの同級生に次のようなコメントをつけて報告を寄せてくれるよう提案しました。 1. 近況報告を通してクラスの

交流ができないものか？ 2. 集まった近況便りでミニ会報47度版ができないか？（原稿が集まりすぎたら別冊としてもいいと思いますが？） 3. 数年間で全員がリレーして継ぐなどもいいかあ！とありますが？ ということに寄せられた中から『47年度卒業生近況便り』は山田有一氏と松本からの二つの報告を寄稿します。

私の健康法

山田 有一 (昭47)

卒業して早34年が過ぎようとしています、皆さんお元気で過ごしの事と思います。今回松本逸郎くんから近況を書いて欲しいとの依頼がありましたので、現在、生活習慣病の代表である糖尿病に関係のある製薬企業に勤務している関係上、「私の健康法」について書いてみようと思います。

私が自分の健康について不安を感じたのは今から26年程前京都に勤務していた頃です。不摂生な食生活の結果、体重は82kg（学生時代は57kg前後だったと思います）で、毎年カッターシャツの首回りとウエストが広がりW90cm近くまでなっていたと思います。病院の階段を上ると少し息切れがし、ゴルフも1ラウンド回ると膝が痛くなる様な状況でした。でも年齢的にも若く体力には自信がありました。夏のある休日、京都市郊外の愛宕山に登山に出かけました。900m前後の低い山ですが、結果はさんざん、息は切れるは、膝は痛くなるは、8合目ぐらいでダウンしてしまい体力の衰えに愕然としました。翌年金沢へ転勤となり犀川の麓に住む事になりました。幸い川に沿ってジョギングのコースがあり、初夏の休日に何となく走ってみたい衝動にかられ、走ったのがジョギングの第一歩でした。最初は激しい狭心痛が肩から走りほんの300m程しか走れませんでした、少しずつ距離を伸ばして行き2週間後には1km、1か

月後には3km程走れる様になりました。ジョギングを始めると同時に減量も始め、冬を迎える頃には75kg前後に体重を落とす事ができました。それからは雪の時期を除いて毎日3km走る事が日課になり、途中から家内も一緒に走る様になりました。

その後転勤しても近くにジョギングコースがある所に住む様にし（福岡では大濠公園、東京では埼玉の航空公園、都内の世田谷公園の近く）、現在は神戸市の東灘区に住んでいますが、芦屋浜（4km）六甲アイランド（5km）住吉川（4.5km）のコースが近くにあります。朝（夏4：30～冬6：30）に5kmを基本に年間150～200日を目標に走っています。また海外旅行をする時も必ずジョギングウェアとシューズは持参する様にしています。近郊の市町村で開催されるマラソン大会にも夫婦で毎年5～8回は参加する様にしています。本年度の目標は200日－10000mで、200日のジョギングと1万メートルの登山を目指していますが、登山の方がすこし厳しい状況になっています。

御蔭様で定期健康診断でもさして悪い所もなく（体重73kg, BMI23.3）、体力的にも40歳台前半は維持できているのではないかと思います（10kmの本年度最高タイムは49分22秒です）。また睡眠も短時間熟睡型に変わり、どこでも、ほんの5分間程で眠りに着く事ができる様になりました。またス

トレス解消には最良の方法で、朝ジョギングをした方がその日1日の仕事も充実している様に思います（現在の私の至福の時は、マラソン大会で走り終えた後温泉に浸っている時です）。今年でかれこれ25年程ジョギングを続けていますが（地震の後、怪我の為に2年間走れない時期がありました）、長く続けるコツは、①環境のよい場所で四季の変化を楽しみながら走る事 ②目標を持つ事（タイム、日数、大会への参加等）ではないかと思えます。

現在平成14年の国民栄養調査の結果、糖尿病が強く疑われる方は740万、疑いがある方は880万、合計1620万の方が糖尿病と関係していると言われています。また最近ではメタボリックシンドロームの診断基準も作成され、生活習慣病についての関心が高まっていますが、元気に高齢時代を迎える為にも、生活の中に運動を取り入れる事が大切ではないかと思えます。

何か皆さんが運動を始められるきっかけになればと思筆を取りました。

金 山 銀 山

松本 逸郎（昭47）

数年前にひょんなことから卒後25年目にして薬剤師免許証を頂きました。その顛末についてお話しします。それはある筋からの話で、市内の美容学校で消毒学の非常勤講師にとの話だったのです。「私の専門は生理学なのですが？」の問いに美容院の監督官庁は薬務課だということです。それで「非常勤は薬剤師免許保有者が良いというのです」「ん？」「あなた薬学部でしょう！」「そうですが免許証は持っていません」「はあ？ペーパードライバーですか！」「いやペーパーはまだなんです。実技試験も。でも申請すればもらえるのです。いや貰えると思います。きっと！」「大丈夫でしょうね！」「たぶん。いやちょっと問題が！」「まだ何か？」「申請料が〇〇円程かかるのですが…」「ではそれも含めて出してもらいましょうか！学校から！」「うん！うん!!。そんならよか！」ということで県の薬務課に行きましたところ、村岡 繁氏（昭47）がおりまして「なんしたと？」「いや！会社ば首になったとじゃなかとよ！実はこれこれ…」「あっ、そう！そんならこれこれを用意して…」と無事に実技試験も通過してめでたく免許証を頂きました。

付け刃でしたが、細菌学、微生物学、ウイルス学、消毒法、衛生学等々を短期間に詰め込みました。たっぷりとは言えないまでもそこそこに仕上げて講義第一日目に来ました。職員室で校長先生に挨拶かたがた「私みたいな人間には美容院は無

縁（頭髪はほとんど後退したため美容院にも理容院にも20年来行っていない）なのですが、せっかくのご縁なので一生懸命に頑張りますので！」と言うと、「いえ、いえ！とんでもないです」（何かとんでもないのか意味不明でしたが多少少しでも髪の毛が残っていればお客さんになるの意味か？）との返事。その言葉に背中を押され教壇に立ちました（颯爽と行きたかったのですが寄る年波に勝てず、多少もたもたしていたかもしれませぬ）。

そしてゆっくりと教室内を見渡すと、なんと教室は金山・銀山のオンパレードではないか！金山・銀山は中国盆のお飾りですが、ここでは男女半々程度にいる生徒のおつむが全て金銀で光り輝いているのです。目は点に。落ち着いてよく見ると緑あり、紫あり、白に赤にピンクに綾錦。まるで錦秋の山ではないか。絶句！その間約10秒あまりか。いやわずか3秒くらいだったかも。ショックがそれだけ大きかったためか、始める前にもう帰りたいものなものです。しかしよく考えてみるときょう日、髪の毛はケガしないための防護のためにあるのではなくて飾るためにあるようになって久しいのです。目から鱗が落ちるとはこのことでした。一瞬のショックから立ち直り開口一番皮肉を効かせたつもりで「西洋人はクロに染め、緑の黒髪も何のその！日本人は金銀に染めるのがファッションというものと初めて理解した…」と

ショックから立ち直れないまま取り留めもなく、私にとって本来髪の毛の話は禁句になっていたはずなのに、不本意にも長々と髪の毛についてしゃべってしまいました。それで肝腎の講義の前に話を詰めて置くべき立て替えていた申請料金のことを言い忘れて、結局もらい損ねてしまいました。しまった！と思いましたがまあ当然と言えば当然のことで厚かましい話でした。

その後非常勤は後進に譲り、免許証はタンスの隅に眠ったままで活躍する機会は今までありませ

ん。そのうちにお声が掛かり、鱗の落ちるような出会いが起こることを楽しみにしています。しかしその時に勉強したお陰で腸内グラム陰性菌由来の毒素リポポリサッカライド（LPS）による炎症反応と内臓求心性神経の役割について、最近おもしろい発見をしましたのであながち無駄になったわけでもないなあと思っている今日この頃です。実験結果がうまくまとまりましたら金山銀山 part 2 として発表できるかもしれません。乞うご期待。

49年卒(含45年入学)同窓会

立花 剛一（昭49）

2年に一度の同窓会、今回は道後温泉で10月9日に開催しました。山手の会場から5分歩けば道後温泉本館、通称坊ちゃん湯、違った坂を降りれば5分ほどで子規記念博物館、文学壮年でない我々には、ただただ風呂に浸かり、美味しいものを食べ、おしゃべりだけが楽しみ??…でない人もいたかも知れません。

午後6時半に会が始まりあちら、こちらで話の弾むこと。歳は重ねども、30年前のあの横顔、あ

の立ち振る舞い、あの話し方、DNAのなせる技か?おかしくもあり、懐かしくもあり最高の時が流れていきました。

一人一人の近況報告で分かったことがあります。仲間同志でこの同窓会を利用して小旅行をしている人、夫婦で石鎚山に登る人、家族で四国を探索する人、思い思いの同窓会でした。

一次会の終わりにみんなで写真を撮りました。歳は重ねるもの風貌は変わるもの……。



(4列) 藤山, 立川, 大平, 岡本, 灘, 馬場, 堅田, 山口
(3列) 古後, 近藤, 酒井, 竹川, 浅野, 黄, 祖田, 橋本, 原田
(2列) 高石, 岩国, 森, 今村, 売豆紀, 野中, 石橋, 穴吹, 上ノ段
(前列) 渡辺, 本多, 高祖, 嘉本, 方, 立花

我々の同窓会の二次会は、いつの頃からか宿の大きい一部屋での、とりとめも無いおしゃべり会、酒は入る、疲れは出る、声は大きくなる、人の話は聞かない、ここで当地、松山らしく一句 “同窓会秋の虫より騒がしい”

このような状態で12時になっても終わる様子が無いので解散の大声でお開きにしました。

翌朝は酒臭い人、精気をなくした人、いまだ疲れを知らない人それぞれの顔がありました。

朝9時に2年後の大阪での再会を約束して別れました。

2年に一度の同窓会、楽しい思い出として残る“時”を過ごせたのではないかと思います。

昭和50年卒同窓会を終えて、そして次回開催地、長崎に向けての発信

緒方 信明 (昭50)

同窓会現地実行委員会代表

7月17日、卒後30年を祝しての同窓会を福岡市にて行いました。5年前の長崎での同窓会で、次は「福岡」と決めてから、あっという間に時が過ぎました。

さて、場所は季節が夏ということもあり、山間にするか、海の近くにするかの二者択一で、結局、JAL リゾートシーホークホテル福岡。何とも長い名前ですが、ついその前の所有者はご存知ダイエーでした。

ホテルは西区の「ももち」にあり、周辺には福岡タワー、ウォーターフロント施設「マリゾン」、博物館などが歩いて行けるところにあります。東方面には船で15分のところに海の中道公園、マリワールド水族館、西方面には能古島などのローケーションに恵まれ、また隣の福岡ドームで野球観戦ができるなど、まさにエンターテイメントに満ち溢れた魅力的なところです。ただ、リゾートホテルということもあり、提示された宿泊料金はやや高めでありましたが、旅行会社の仲介で割安にさせていただきました。額は秘密。

準備は半年前から増田君と私の二人でボチボチと始めました。78名に案内状を出し、最終的に42名という出席の返事をいただきました。その数に至るまでには数名の協力者がいたことは言うまでもありません。薬学科は主に吉村緑さん、製薬化学科は福田君、元野球部には増田君などいろんなつながりで連絡を取り合いました。他に自分たちで声をかけあった方もいらっしゃいました。もちろん私も気になる方には全員に声をかけました。

こうした努力の甲斐あって高い出席率に結びつきほっとしました。30周年ということもあり、みんなにどうしても集まっていた良かったのです。仕事の都合でやむを得ず欠席になった方は非常に残念でした。

問題は企画でした。30年に相応しいもの、せっかく集まってもらうのだから学生当時の写真を紹介していこうと話が決まりました。案内状には学生時代の写真提供をお願いしました。どのくらい集まるのだろうかと心待ちにしていたのですが、残念ながら結果的には坪根みずほさんだけしか提供されませんでした。実はこれも「想定範囲内」に入れておまして、ここからが幹事の腕の見せ所となった訳です。

早速、増田君に相談したところ、運良く増田君が持っていた薬学部卒業アルバムを使って、全員の顔が出るように約50枚のパワーポイントを使った構成で準備しました。

いよいよ当日です。同窓会の世話人の方々には午後5時にシーホークのフロント前に集まっていたいただきました。私がホテルに着いた時には全員が待っていました。下準備を行ってから事前に増田君と打ち合わせておいたシナリオに沿って温品さん、溝上さん、目野さん、石田君、黒崎さん、藤武君含め8名で進行を意思統一し同窓会に臨みました。

開始時刻が近づくとつれ、心待ちにしていた同窓生が次々と会場に到着し、顔を合わせるとすぐに卒業してからの年月を埋めるようにお互いに話

が弾んでいました。このままあつという間に時間が過ぎ同窓会が終わってしまうかのようでした。

19時。いよいよ同窓会本番の幕開けです。開会の挨拶は黒崎さんより行われました。次にこれまでに他界された大久保さん、高石さん、森山くん3名への黙禱を行いました。

しばらく歓談を行った後、さっそく準備していた卒業写真の紹介に移りました。やはり卒業写真は全員に受けました。サークルごとの集合写真を中心に紹介しましたが、30年前の自分を見るのは、誰もが興味あるようでした。名前は伏せますが番外編で結婚式の写真も紹介されました。そうこうするうちに藤武君の閉会の挨拶であつという間に一次会が終わりました。

場所を変え、そのままのメンバーで二次会に移りました。一次会ではあまり話す時間がなかった分、たっぷりと話すことができました。この二次会もあつという間に終わりました。幹事の責任はここまでで、まだ飲み足りないものはホテル最上

階のラウンジで三次会となり、後は石田君に任せました。

さっそく集合写真をプリントし、欠席された方にも送りました。数名の方からは感謝のしがきをいただき、様変わりした風貌に「顔と名前が一致しないので名前をつけてくれ」などの注文や、「写真を眺めて次回はかならず出席したいという思いに駆られたよ」と手紙を届けてくれた方もいました。

今回は、東京でという話もありましたが、とりあえず次回は長崎開催に戻しました。場所はハウステンボスという声もありますが、変化した長崎をみたいという気持ちが強かったからです。

長崎では、みなさん全員元気でお会いできることを楽しみにしたいと思います。

この会の成功のためにご協力いただいた福岡在住の世話人のみなさんには感謝申し上げ、また出席できなかった方にも同窓会の状況が少しでも伝わって欲しいと念じつつこの報告を終わります。※お名前は旧姓で紹介させていただきました。



昭和55年卒同窓会報告

藤山恵津子（昭55）

長崎大学薬学部を卒業してから、早や25年の歳月が流れました。この間、1回目の同窓会が10年目に開催された後、20年目に2回目の開催計画が

あったようですが実現に至らず、卒業後25年目の開催となりました。きっと今回の開催を同窓生の皆さんも心待ちにされていたことと思います。今

回も学生時代を過ごした懐かしい長崎の地で開催の運びとなりました。

平成17年11月12日(土)、長崎駅近くの「料亭坂本屋」に遠くは東京、富山、大阪からも駆けつけていただき、又、3名の先生方(北川常廣先生、三浦博史先生(昭33)、中島憲一郎先生(昭46))のご参加もいただいて、総勢37名(+子供2名)の盛会となりました。翌日のみの参加が1名(製薬化学科の旧姓原さん)ありましたので、同窓会の参加は正確には38名となりました。

卒業後25年ぶりに会う方も多く、前日までは「皆の顔を覚えているかな?名前がすぐにでてくるかしらん?」と心配していましたが、そんな不安も顔を合わせた途端にふっとんでしまい、一瞬にして学生時代に戻ったように話がはずみ、本当に楽しい時間を過ごせました。25年経ったとは思えないほど、皆さん「変わっていない!」の感が強く、幹事のほうで名札を用意していましたが、後日、「あまり必要なかったね。」と話したことでした。

時間に限りがあるため、一人1~2分で近況報告を、とのことでしたが、とても数分で話せるものではなく、仕事のこと(特に調剤薬局の方は、薬学6年制に伴う学生実習受入れの準備についてご苦労があるようです)、子供の事、今回は残念ながら出席できなかった方からのメッセージ等々、

いろんな話題が飛び出していました。又、私たちの子供もちょうど大学生・高校生の年代が多く、薬学部在籍あるいは薬学部めざして受験勉強中といった話題もでていたようです。

近況報告の後は、美味しい長崎卓袱料理をいただきながらの談笑、お酒もすすみ、各円卓でドッと笑いが起こったりと、時の経つのも忘れて楽しい時間を過ごしました。

あっという間の一次会が終わり、二次会は場所を宝町のベストウェスタンプレミアホテル最上階のバーに移して、すばらしい長崎の夜景をバックにさらに盛り上がり、楽しく懐かしい長崎の夜が更けていきました。

翌日は、時間に余裕のある方は、大学近辺や稲佐山等、懐かしい場所を散策して各々の時間を過ごした後、帰郷の途につかれました。参加してくださった皆さん、ありがとう!楽しかったですね。今回は参加できなかった皆さん、次回はぜひお会いしたいですね。次の同窓会は、5年後に大阪(川邊君、お願い!)か横浜(浅田君、転勤してなかったらね)で開催しようと話がまとまったようですが・・・?

皆さん、次の再会まで健康に留意され、又楽しいお酒を飲みましょうね!!

以上、S55年卒同窓会報告でした。

昭和57年卒後25周年同窓会予告

高良 真也(昭57)

学部長挨拶等にも書かれておりますように、同窓の中嶋幹郎君が、長崎大学大学院医歯薬総合研究科生命薬科学専攻医療薬学講座教授に就きました。同じ薬剤学の教室だった林田さんの呼び掛けで、近場の?仲間10名程で11月に小宴を催しました。一次会の小洒落た店で、主賓の到着を待たずして飲みはじめた数名は、生まれてから大学入学あるいは卒業までの年月よりも大学を卒業してからの年月の方が長くなった事実で改めて驚く一方で、学生の頃とあまり代わり映えない仲間の姿に安心した次第でした。主賓が到着し記念品の贈呈の後、乾杯となりました。三浦(真茅)君の乾

杯の挨拶にもあったように「かこつけて飲みにきた」わけですが、これで母校を訪ねても顔を出せる教室が後20年程の間は確保できたのは嬉しい限りです。その昔、福岡の中島(窪地)君の家に男数名で泊まった時、夫人も中島君もいない家での朝食の後、食器を洗って片付けて出ていった幹郎君の事なので、きっときれいな教授室で我々を迎えてくれる事でしょう。思い出話、同窓の近況、家庭の話に仕事の話と尽きる事はなく、二次会がお開きになったのは夜中を過ぎてしまい、私は学生時代以来久しぶりに諫早までタクシーで帰る事になってしまいました。あまりにも楽しかったの

と「来年は卒後25周年ではないか」との意見で、来年こそ同窓会を開こうという事になりました。その場では、温泉にでも浸り一泊二日でゆっくりと、という声が強かったようです。池田君には数年来言われ続けながらこれまで実現できませんで

したが、来年（平成18年）には必ず同窓会を開きます。みなさん案内状が参りますまで、ご家族を洗脳しつつしっかりとお小遣いを溜めておいてくださいネ。

芳本忠先生の還暦をお祝いする会

伊藤 潔（昭59）

平成17年7月30日の土曜日、薬品生物工学研究室教授 芳本 忠先生の還暦をお祝いする会が開催されました。芳本先生が生物工学研究室（旧薬品製造工学）の第二代教授にご就任されたのは平成6年。同年5月30日に教授就任祝賀会を催した記憶があり、探したところ記念写真が出てきたので記事に載せてみました。早、11年が経ったこととなりますが、写真から月日が思い起こされますかどうか。

さて、本題の還暦をお祝いする会。場所は、長崎市薬剤師会の会長に就任されたばかりの永田修一先生（院55）のご助言もあり、松亭に決めました。「かんれき」の響きに多少「何とはなしの抵抗」もご本人にはあったかもしれませんが、そこは、飲み事の好きな芳本先生。同門生の憩いの場になればと快諾していただきました。「還暦」をご存知ない諸氏はおられないと思います。筆者の好きな広辞苑によれば「(60年で再び生れた年の干支に還るからいう) 数え年61歳の称」とあります。一般的な還暦の話は各人でお調べいただくとして、長崎の還暦（に限らず祝い事一般）には神社への参拝が付き物（なんです）。ご存知でしたか？

長崎で神社といえば、お諏訪様。ということで、当日は真夏の日差しの中、スーツに身を包んでいただき、奥様ご同伴で諏訪神社へ行って参りました。先生も社殿内に入られるのは初めてとのことで、少々緊張しながら神主さん（宮司さんといった方がよいのか、わかりません）と巫女さんをお待ちし、お神楽を拝観して、還暦のお払いをしていただきました。写真はその時のもので、助手の中嶋先生と中国からの留学生で大学院博士課程1年の徐悦君、早めに到着した村山信浩君（昭61）

（昭和大学薬学部助手）が付き添ってくれました。

前置きが長くなりましたが、いよいよ松亭へ到着して、出席者をお待ちします。大勢が集まってくれました。初代教授の鶴大典先生は熊本から。ありがとうございます。同じく熊本、崇城大学からは初代助手の藤原邦雄教授（昭45）。一番遠くは、北海道から角邦男氏（昭50）にご出席いただき、南は沖縄の兜坂智浩君（平14）まで含めた総勢は、学生も加えて73名となりました。この間、先生は、お決まりの赤を身に付けられ、到着した同門生とにこやかに談笑されました。

鶴先生と藤原先生のご祝辞で始まったお祝いは、花束贈呈、記念品贈呈と続きます。芳本先生には、「Happy 60th Anniversary Tadashi Yoshimoto」とレーザーで刻印した iPod photo に出席者の写真と、これまでに明らかにした酵素の立体構造のCGを取り込み、アクセサリ一式を添えて、また同席していただきました奥様には「芳本常代・生物工学同門会より」と刻印したグリーンの iPod mini をお贈りしました。

同門の皆さまはご存知だと思いますが、研究室内には普段あまり見かけないような工具類などがおもちゃのようにあります。また最近の学生は知らないかもしれませんが芳本先生はテニスがお好きです。楽しむ暇がないのが現実ですが、同時にお送りした「赤のキャップと赤のスポーツタオル」と一緒にテニスを楽しまれ、おもちゃを手にしている先生を思い浮かべてみてください。

長くなりそうなので、そろそろ締めようと思うのですが、まだ永田修一先生による乾杯すら書いていませんでした。途中は省略させていただきます。その後、芳本先生によるスライドショー講演もあ

り、終始和やかに進んだ会は、角さんにしっかりと締めていただいたのでした。教授ご就任から11年経って催された還暦の会は3枚目の写真のように大勢の出席者で盛り上げられました。会の様子は写真に広がる笑顔からご想像下さい(下田君(平



教授就任祝賀会 (平成 6 年 5 月)

2), 次の時はちゃんと写して下さい。全ての出席者のお名前は記しませんが、ご賛同いただきました皆さま、ありがとうございます。今後も益々発展されていかれることを願って筆を置きます。



諏訪神社にて



松亭にて

平成 2 年卒 & 理由年組 (昭和61年度入学生) 同窓会報告

山本 稔 (平2)

「5年後にまた会いましょう。」そう言って解散した前回の卒後10年の同窓会から早や5年。あっという間に卒後15年の同窓会を行う年、2005年が

やって来ました。幹事の私は、少しブルーになりながら、重い腰をなんとか持ち上げ、まずは1月に長崎市内在住者とアメリカから帰国した井手さ

んに集まってもらい、打ち合わせを行いました。その結果、3連休の中日がいいだろうということで9月18日(日)開催と決まりました。

開催日は決まったものの、案内状作りでまたブルーに。富田君、峰さんに後押しされながら、なんとか案内状を送付できました。返信一番乗りは西村(小林)さん。なんと案内状を出したその日の夕方に戻ってくる素早い返事に驚かされました。その後、続々と返事が集まり、出席者は総勢33名。氏名は以下の通りです。

秋吉隆治、阿部(日迫)睦美、荒木小百合、井手指月、宇賀美帆、江頭(穂山)道子、岡本晶子、小山季之、小山(山崎)令恵、鍵本明男、樫本(岡田)知子、川口(永淵)栄子、川口晋紀、川口(山本)和美、下田(浦川)幸枝、杉本さつき、常岡(道祖尾)万以子、富田 守、西村(小林)美穂、鳩貝(藤原)晶子、堀 貴子、間瀬(香月)香澄、松井理代、松田(富永)祥子、松元(高)玉緒、峰美和子、森奈津子、森川慎也、森川(濱田)かおる、森下(山田)恭子、山内秀樹、山内(増田)美和子、山本 稔

前回同様、多数参加していただき、幹事として嬉しい限りでした。欠席者組で報告したいのは、締め切りに間に合わすためにわざわざ速達で出してくれた岡村(柴田)さん、開催日前日にわざわざ欠席の返事をくれた下田君、とって出席したそうで残念そうだった熊高(岡田)さんなど、気持ちがかもっていて大変嬉しく思いました。

開催日当日、子供の運動会なども重なり、バタバタしながら私が会場のホテルセントヒルにたどり着いたのは、開宴30分前。ちょっと遅くなってしまったと恐る恐る会場へ行ってみると一番乗りは森なっちゃん。幹事の私より早い到着でした。その後、皆さん続々と集合し、例によって長崎時間してくる方もいましたが、なんとか開宴前の集合写真を全員揃って撮る事ができました。今回も富田君がわざわざ重いカメラ、三脚を持参して撮影してくれて大変助かりました。富田君の見事なテクニックで全員15年の歳月を感じさせず、学生時代のように若々しく撮れていました。

その後、いよいよ開宴。まずは幹事の私が挨拶を述べた後、地元で頑張っている鍵本君に乾杯の音頭をとってもらいました。その後はそれぞれの

テーブルで久しぶりの再会に話が弾んでいました。近況報告などをしてもらって場を盛り上げようかと思っていた幹事の心配をよそに、それぞれで大いに盛り上がっていました。今回は子供連れの参加が多く、広い畳の部屋ではしゃぎまわる子供たちでとても賑やかでした。子供好きの秋吉くんの周りには子供たちが群がっていて、遊び相手で大忙しの秋吉くんでした。家族4人でホテルに来ていた山さんにはぜひ家族も一緒に誘ったのですが、照れくさかったのか宴会は遠慮したいとの事で子供さんだけ記念写真に入ってもらいました。例によって山さんは富田君の後を追ってテーブル毎の記念写真にすべて写っていました。やはり、山さんは何年たっても山さんなんだなと思いました。小山君は皆の期待に応えて、令恵ちゃんの制止を振り切ってジャージで参加してくれました。情報処理センター(懐かしい響きです)M君からの情報によると、某2名の方から「平成2年卒やったら、おれらはでられへんやないか」との抗議がでているとのことでした。私は個人的に小川君が卒業アルバム作成時に発案した理由年組という響きが妙に気に入っておりましたので使わせてもらっていたのですが、理解してもらえなかったようなので、次回と同窓会開催時は昭和61年度入学生ということで案内したいと思います。そうこうしている間にお開きの時間になり、最後は山さんの音頭によるちょっとタイミングの合わない万歳三唱でお開きとなりました。

二次会は駅前の白木屋に移動して25名が参加しました。ちょうど時同じくして開催されていた九州山口薬学大会の運営のため、残念ながら一次会欠席となっていた百岳(神浦)さんが二次会から参加してくれたので、二次会の乾杯は百岳さんに音頭をとってもらいました。二次会も大いに盛り上がり、最後は東京から家族連れで来てくれた森川君による一本締めで終了しました。終わったのは11時前くらいだったと思います。その後、5年ぶりの再会で名残惜しいのか、皆、帰ろうとせず、三次会へも17名の参加がありました。場所は手軽に白木屋の2階の魚民と、上に移動しただけでしたが、12時過ぎても皆帰る気なんて毛頭ないかのように話に花が咲き、お開きになったのは、2時前でした。年を取ったせいか、四次会までと学

生時代のような元気のある人はさすがにいませんでしたが、皆、名残惜しくそれぞれ家路に着いたのでした。

以上、取り止めのない話しとなりましたが、平成2年卒&理由年組(昭和61年度入学生)の卒業15年の同窓会の報告とさせていただきます。まだ、書き足らない部分が多々ありますので、詳細については出席者の方にお聞きください。

最後に、今回も多数の出席で盛会に同窓会を終えることができ、幹事として心より御礼申し上げます。特につくばから来てくれた川口夫妻には、天候によっては航空券が無駄になるかもしれないリスクをかえりみず出席して頂き、幹事として本当に嬉しく思いました。また、開催日が運動会シーズンだったため、出たくても出られなかった方々には深くお詫びいたします。次回はできるだけ多くの方が出やすい日に設定できるよう努力します。

それから、わが学年の同窓会は山さんがいれば、おのずと盛り上がるのですが、やはり、山さんと言えば、「その仲間達」。次回は卒業20年となりますので盛大に盛り上がるためにも「その仲間達」の方々の出席をお待ちしております。

それでは、昭和61年度入学生の皆さん、「5年後にまた会いましょう!!」

(追記)

本同窓会の翌朝、我が長楽野球部の後輩である小畑 滋君の訃報を聞くこととなりました。小畑君は笑顔が絶えない真面目で人望のある男でした。このような結果になって、本当に残念でなりません。いつだったか、野球部のOB戦で2安打し、「稔さん、ヒット2本も打っちゃいましたよ。」と笑顔で話していたのが、今でも心に焼き付いています。心からご冥福をお祈り申し上げます。



久々の「薬化大会」しました

鶴屋伸一郎(平3)

「ここに五郎先生がいらしゃることにして、乾杯!」という都知木先輩(昭56)の名調子による乾杯の声で、久方ぶりの「薬化大会」がスタートしました。今回は、義兄の城下さん(昭61)の天の声に導かれ、不肖鶴屋が幹事をさせて頂きました。長崎近郊の方々に声をかけようとしたのです

が、どなたに声をかければよいのやら悩んでしまいました。結果、宴会の席で先輩方から、「あいつはどうした」「〇〇には連絡しなかったのか」と沢山のご指摘を頂きました。研究室の飲み会の幹事は大変です。

参加者は、お世話になった松田先生(昭37)、富

永先生（昭44）から今は何をやっているのか良く分らない？峰松君（平8）まで20名でした。峰松君の名誉のために書き添えますと、現在は情報関係の会社を自ら立ち上げ、薬局等でも仕事があるとのことでした。後藤先輩（昭57）は大分から参加して下さり、遠く東京からは古野夫妻（平3・平5）が子供連れで参加してくれました。「たまたま聞き付けて」とのことで大変ありがたかったです。近況報告では、松田先生は審議会の委員をされていて定期的に鶴丸さん（平5）と一緒になるようになったとのこと、富永先生は最近も新しい反応を見つけたと熱く語られ現役バリバリといった様子でした。さらには、稔稲子先輩（昭61）が薬剤師を始められたという危険な情報や、製薬会社の名前がコロコロ変わっているといった、

科捜研（くれぐれも鑑識ではありません）にいる私にとっては、あまり馴染みのない話もありました。それでも私の目には、私を除いて皆様お変わりなく、薬化学教室当時そのままに映りました。相変わらずおしゃべりな方、相変わらず勧め上手な方、相変わらず... で、本当に賑やかな集まりを持つことができました。参加して頂いた皆様にご場を借りて改めてお礼を申し上げます。

二次会は大野先輩（昭54）にも参加頂きなつかしい「モロッコ」でこれまたワイワイたのしい時間が過ぎました。心残りは、話が弾み過ぎて、一次会、二次会とも料理があまり食べられなかったことでしょうか。

今回は、もっと色々な方々にお会いできたらと思わずにはいられない一日でした。



2005年12月3日 京華園にて

平成11年度卒業生同窓会

今村 朋史（平11）

今年も昨年に引き続き長崎くんちの真っ只中に同窓会を開催しました。昨年はかなり前から準備をしていましたが、今年手抜きをしまいぎりぎり準備を始めたせいか13人という非常に少人数での開催になってしまいました。それはそれで面白かったのですが…。来年も同様に10月の連

休前にしようと思っていますので同級生の皆さんはそのつもりでいてください。大人数での同窓会を期待しています。

学生の頃と違い、社会人になり、結婚し子供もいる人がいたり、それぞれ事情があってなかなか大人数が集まりにくくなっているように感じて

います。少しでも多くの人数を集めようと考えていますが、これからは年々寂しくなっていくのではと心配しています。でもめげずに毎年開きたいと思っています。各学年の同窓会を仕切っている幹事さんで、もし人を集めるいい方法があればぜひ教えていただきたいものです。

今年は去年の反省を生かして、一次会と二次会の場所を両方とも出島ワープにし、移動する手間を省きました。去年は、おくんちの出店の前を混雑している中みんなを歩かせてしまい迷惑をかけたからです。

一次会は、「ながさきぶらぶら邸」にしました。前に利用したことがあり融通がかなり利く店なので選びました。幹事が遅刻（去年よりもひどかった…）してしまいみなさんに迷惑をかけてしまったことをここでお詫びします。乾杯の挨拶（今村）も適当に会を始めました。今年は人数も少なかったのであまりすることもなくゆっくり飲み、皆と懐かしい話で盛り上がることができました。一次

会の締めは、新婚の徳久くんをお願いしました。

二次会は、すぐそばの「R-10」、ここは一次会の店に紹介していただきました。内装もかっこよくおしゃれな店です。ほぼ全員が二次会まで来てくれました。乾杯の挨拶を沼田くんをお願いし、二次会が始まりました。それなりにお酒が入ってきて、いろんな話が出てきましたがここでは省略させていただきます。よく覚えていませんが確か閉会の挨拶はなかったように思えます。まあこんな感じで適当でいいだろうというものだったのでしょう。

三次会は昨年同様ラーメンです。寂しく4人で乾杯しました。水餃子とチャーハンがうまかった!!不思議と入るものですね。

来年もたぶん開催します。みんなは「おつかれさま」とか「ありがとう」とか言ってくれますが、幹事とは名ばかりで何もしてません。こんな会でよければみなさんぜひ来てください。それなりに楽しいですよ（^0^）



近 況 報 告

濱野 環（平12）

みなさま、こんにちは。久しく会っていない同窓生をはじめ、諸先輩後輩方、お元気でしょうか。

同窓会報に寄せて、近況および自分を取り巻く環境について思うことを書いてみたいと思います。

私は卒業後企業に就職し、生物系の研究員として3年半働いていました。仕事内容は大学で学んだ知識を生かせる大変やりがいのあるもので、上司にも職場環境にも恵まれて、とても充実していました。1人目の子供を出産後、子育てという仕事加わって環境が変わり、ワーキングマザーとして1年余を過ごしてきましたが、今後の子育てと現在の仕事を両立させることについて、困難に思うことがあり、来年2人目の子供が生まれるのを機に思い切って退職しました。

夫も私も通勤時間は1時間程で、フレックスを利用して夫が遅朝出勤遅帰りで朝の育児と保育室への送りを担当、私は早朝出勤早帰りで保育室へのお迎えと夜の育児を担当していました。両親ともに居住地が遠いため、子育てに対する日常的な親のサポートは頼れず、仕事の都合で子供の面倒をみられないときのために、ファミリー・サポート・センターに登録していました。ファミリー・サポート・センターとは、地域において育児や介護の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織です。この事業は、働く人々の仕事と子育てや介護の両立を支援する目的から労働省（当時）が構想し、各地で市区町村により設立運営されています。私の住んでいる地域ではNPO法人組織がファミリーサポートを行っていたため、そこに加入して、緊急時にはお願いできる体制を整えていたのです。

しかし、風邪を引くとすぐに喘息が出る子供を、吸入のために病院へ連れて行ったり、お腹を壊して保育室に行けない子供をファミリーサポートの方に預けることは出来ず、子供が具合が悪くなった次の日に夫が倒れ、次に私が倒れるという家庭内病気連鎖も起こり、あっという間に有休はなくなり、自分の満足できる仕事も出来ずという予想された状態に陥ってしまいました。子供が小さいころは仕方ないよという周囲の声も多々ありましたが、仕事や育児が中途半端になっている状態に自分で納得することは出来ませんでした。そんな時「仕事の代わりはいるかもしれないけれど、母親の代わりはいないよ」という知人の言葉はとても胸に響きました。

1人目の産休に入る前、会社の方から「親ばかりでないと子育てはやってられない」という言葉を頂きました。確かに、好き勝手出来る自分の時間はなくなりますし、本能のままに生活し、やりたい放題の子供に付き合っていくのは親ばかりでないとやってられないのかもしれませんが。退職するという決断は私にとって大きな岐路でしたが、この選択で良かったと思っています。今後は子育てと両立できる環境で余裕をもって働いていきたいと思います。みなさまも人生色々な岐路があると思いますが、悔いのない、よい選択をなされることを願っています。また、働く母親にとってよりよい社会環境になることを願ってやみません。

長大病院薬剤部併設研究室同門会報告

友成 正英（平12）

平成17年8月20日、長崎市内にて長大病院薬剤部併設研究室の同門会を行いましたので報告させていただきます。

この会を行うきっかけとなった出来事は、約半年前…いや1年前？その辺です。私は久々に会う研究室同期メンバーと楽しく酒を交わしていました。「また研究室のみんなが集まって飲みたいね〜。」「同門会やな。」「じゃあ長崎における友成君と福地さんがしきってね〜。」「酒も押しも強いHさんのこの発言から企画がスタートしました。日程決

めから始め、案内状作成、予算見積もり等不慣れな私は四苦八苦ししながら準備を進めました。多くの方にアドバイスを頂き支えられ何とかこなすことができました。

そして迎えた当日。会場となった長崎グランドホテルには予想を上回る40名の方が集まってくださいました。入り口から誰か入ってくる度に再会を喜ぶ声が聞こえました。その声が会場を埋め尽くし、賑やかな雰囲気の中で始まりました。在学中の懐かしい話、お互いの近況報告…。私も社

会人になってから会う機会のなかった先輩方や後輩との再会を楽しみました。8月1日付けで長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻臨床薬学講座の教授に就任された中嶋幹郎先生（昭57）へのお祝いもあり、あっという間に2時間が過ぎました。二次会はバーへ移動。30名以上の方が二次会まで参加してくださいました。店は貸し切り状態で、飲み放題の参加者のテンションはピークに達していました。何時間いたのかよく把握できないまま終了。予定していなかった三次会は再び近くのバーへ。そして四次会は二手に別れそれぞれ寿司とラーメンへ。私は寿司を食べに行きましたが、この時点でもまだ8人くらいは居たような気がします。半分寝ながら食べた寿司の味は全く記憶に残っていません。

参加者は終始笑顔で、楽しんでいるのがよく伝わってきました。企画してみて本当によかったと思える時間を過ごすことができました。また、今回出席できなかった方からは、参加できないこと

を悔やむ声を頂きました。私は、研究室にいた時間は、学生時代の中でも特に重要だったと思います。自由気ままに過ごしていた学部生が、初めて組織の人間となった時間です。朝から晩まで知識だけでなく多くの事を学び、社会へ出る準備をするための大切な時期だったと感じます。この時期に出会った先生・先輩・仲間は生涯かけがえのない存在だという人は多いのではないのでしょうか？同門会を行えば会うことができます。これは私達幹事が同門会を企画した理由の1つでもあります。今回出席できなかった方のためにも、この会を定期的に続ける必要性を感じました。まだ未定ですが次回も多くの方のご参加をお待ちしています。

最後に、この会の準備には多くの先生方が力を貸してくださいました。本当にありがとうございました。また、私の不手際でご迷惑をおかけした先生方にはこの場を借りて深くお詫び申し上げます。



第2回同窓会を終えて

小西 宏規（平14）

思えば早いもので、卒業して3年が経ちました。学部卒業すぐに調剤薬局に勤めたので、現在勤続4年目ということになります。初めは苦労した薬の名前もようやく覚え始め、服薬指導もそれなりに自信がついてきたような気もしますが、患者さんの思いがけない質問に戸惑ったり、コンプライ

アンスの良くない方にどう納得してもらい服用してもらえるか、などとうんうんと悩んだりしています。それでもそんな問題がうまく解決できたり、患者さんからありがとうと感謝されたりすると嬉しき、充実感で、薬剤師になって本当によかったなと思います。また大学院博士前期課程卒の人も

社会人2年目、博士後期課程に進んだ人は研究に、それぞれのフィールドで頑張っているものと思います。

さて、去る10月9日、博多にて第2回同窓会が開かれましたので、報告したいと思います。実は第1回目が昨年学園祭期間中に長崎で開催されたのですが、多くのクラスメイトの連絡先が不明だったこともあり、ほとんど内輪の飲み会になってしまっていたので、実質的な同窓会というのは今回が初めてということになります。今回はどうしても連絡がつかない人以外はほとんど案内が届き出欠が取れたものと思います。幹事会、それから協力してくれたみんな、どうもありがとう。

同窓会には30人弱の級友が、連休の中日という日程にもかかわらず参加してくれて、本当に楽しく過ごすことができました。近況を話し合ったり、仕事の愚痴をこぼしたり、来年度から始まる薬学部6年制について意見を交換したり、とまあ在り来たりの同窓会の風景が繰り広げられていたわけですが、でもそれはそれで良いと僕は思います。同窓会でしかできない話をする、同窓会の機会がないとなかなか会えない旧友と語り合い、学生時

代では知りえなかった相手の一面を発見する、お互いの成長を認め合う、そんなことはこの会でないとなかなかできないのではないかと。私事になりますが、人間を相手に商売をするサービス業である薬局薬剤師にとって、日常の業務は答えのないことばかり。行き詰ったとき、誰かに意見を求めたいときに、助けてくれるのが友人です。こんなことがあったんだけど、お前ならどうする？って気軽に尋ねられる機会を作ってくれるのもこの会ならではの。だから今後もなるべく多くの参加者が集まるように会を盛り上げていきたいと思います。

最後になりましたが、幹事会から連絡があります。来年の同窓会は長崎で開く予定とのこと。遠方の人にとってはもっと集まりやすいところがいいとの意見もありますが、思い出の土地でいたいという声もあり、このようになりました。なるべく負担が少なくなるように、いろいろ工夫してみたいと思っています。目標は全員（強制）参加。今回連絡が来ていない人は幹事会、または僕のところまで連絡ください。次回の日程、場所などもなるべく早く決めて連絡いたします。

